

食性データベース2000件 記録と記録者紹介



バードリサーチ 植村慎吾

食性データベースとは

鳥の採餌情報をみんなで集め、1例ずつ蓄積していこうという企画

なぜやるのか

食う食われるの情報は、分布の情報と並んで基礎的で、
様々な生態の研究などにつながる汎用性の高い情報。

しかし、鳥がいつどこで何を食べているかという記録は
意外なほど蓄積が少ない。

- これまでの記録の概観
- ピックアップ紹介
- 観察による記録とその他の方法による記録の説明
- 観察者の紹介

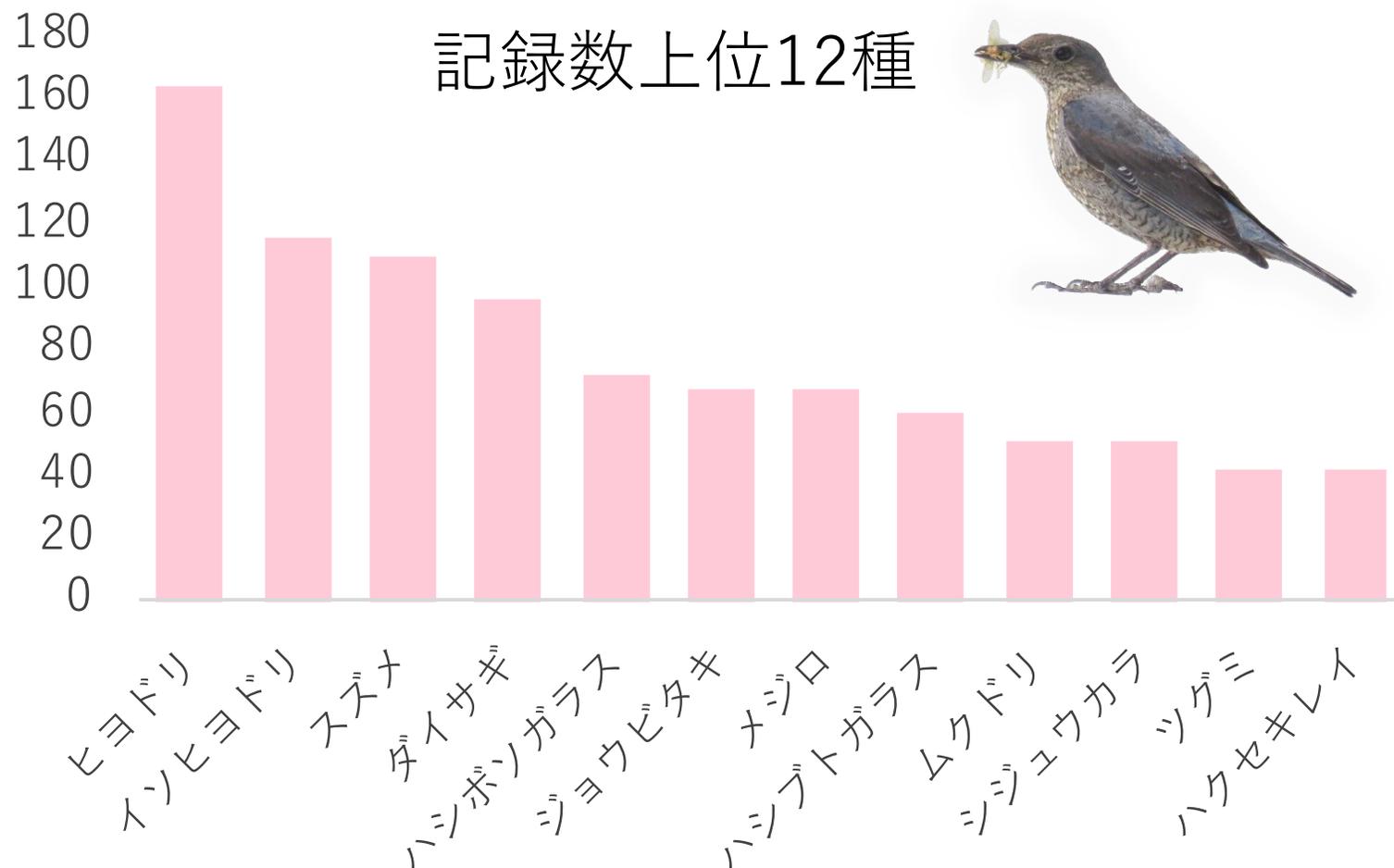
2022年1月に開始

これまでに

208 種

2076 件の記録

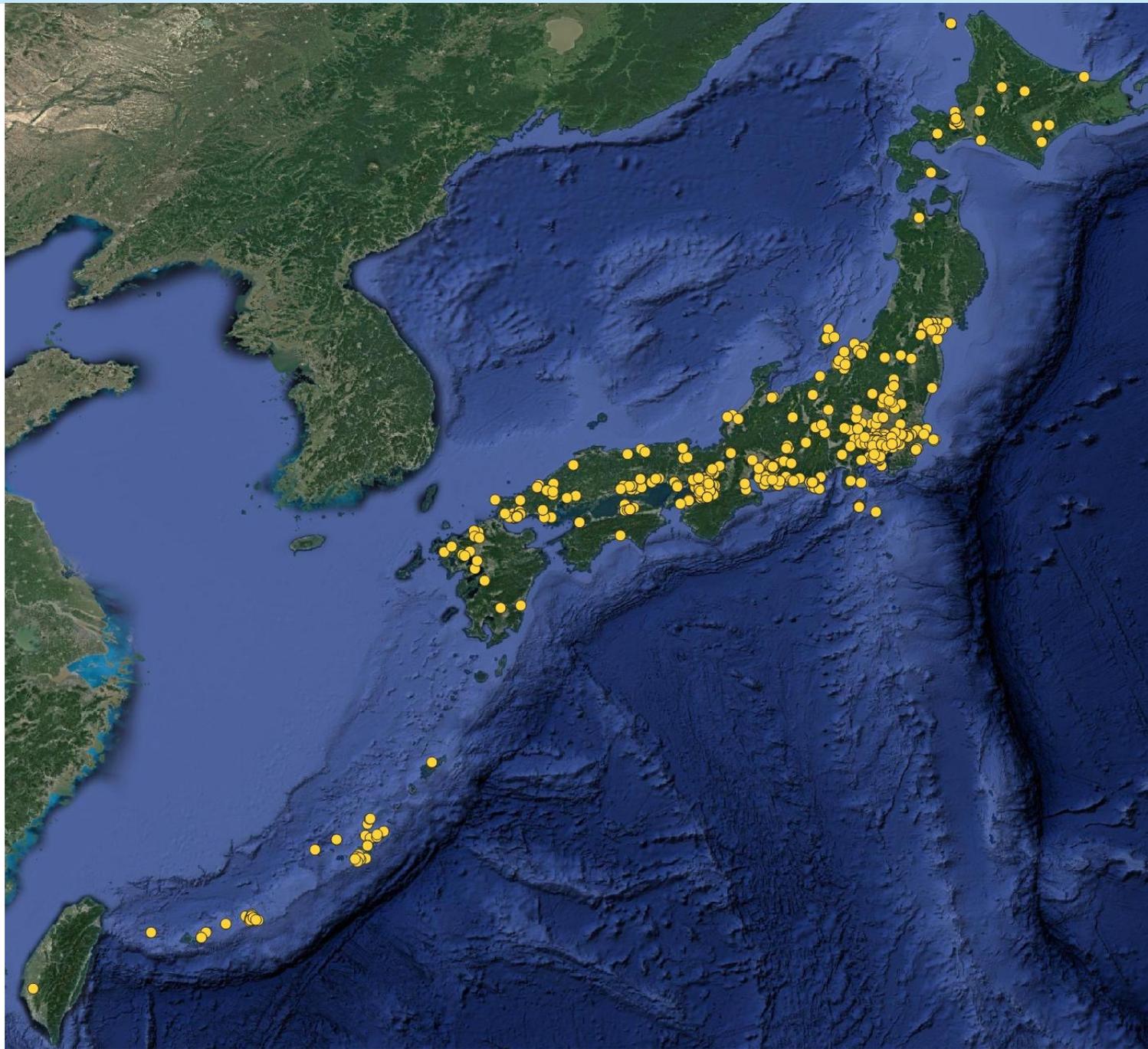
記録数上位12種



2022年1月に開始
これまでに

208 種

2076 件の記録



2022年1月に開始

これまでに

208 種

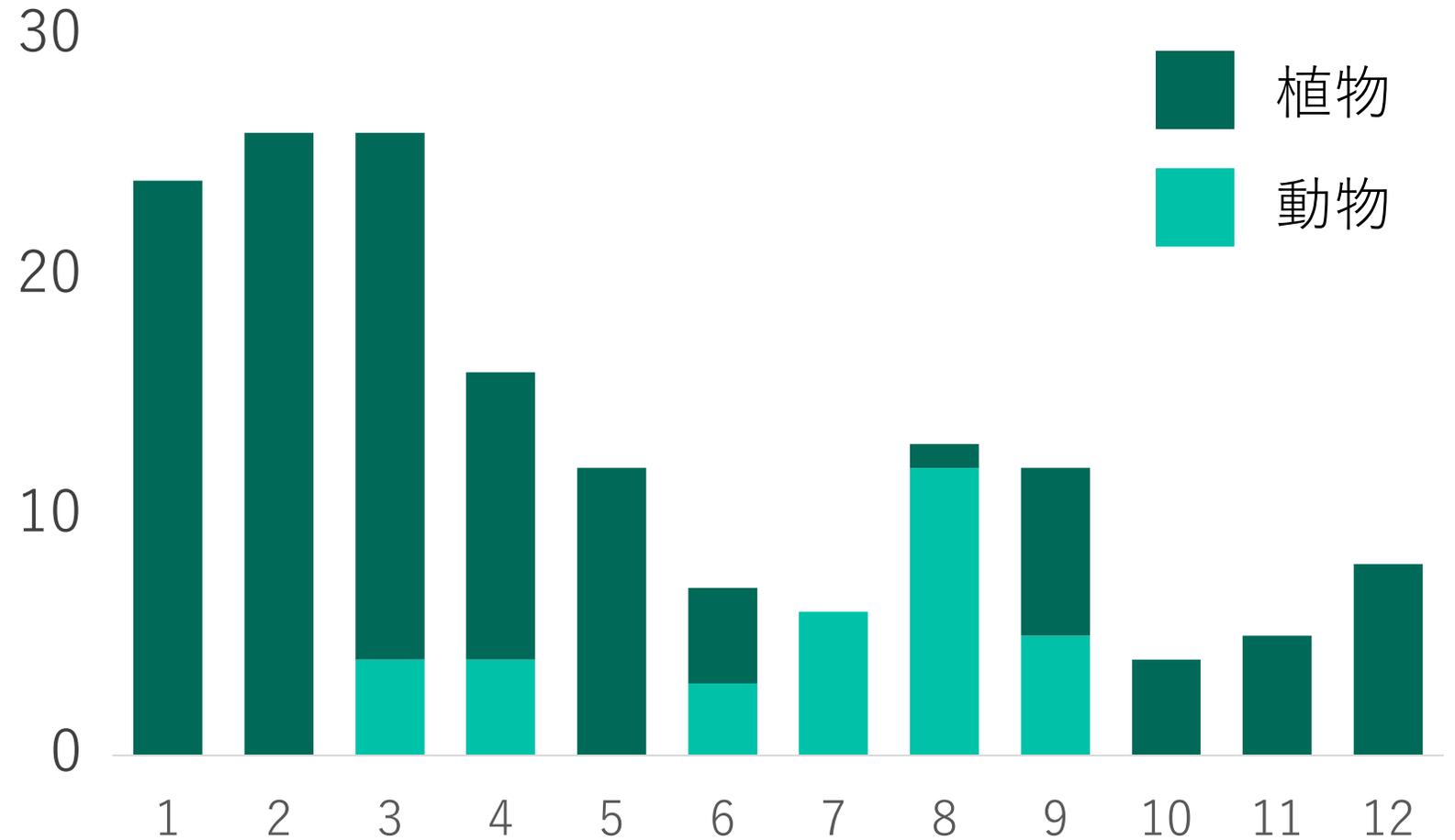
2076 件の記録 ← まだまだ超少ない

神奈川県鳥類目録の記録は

18万件！！

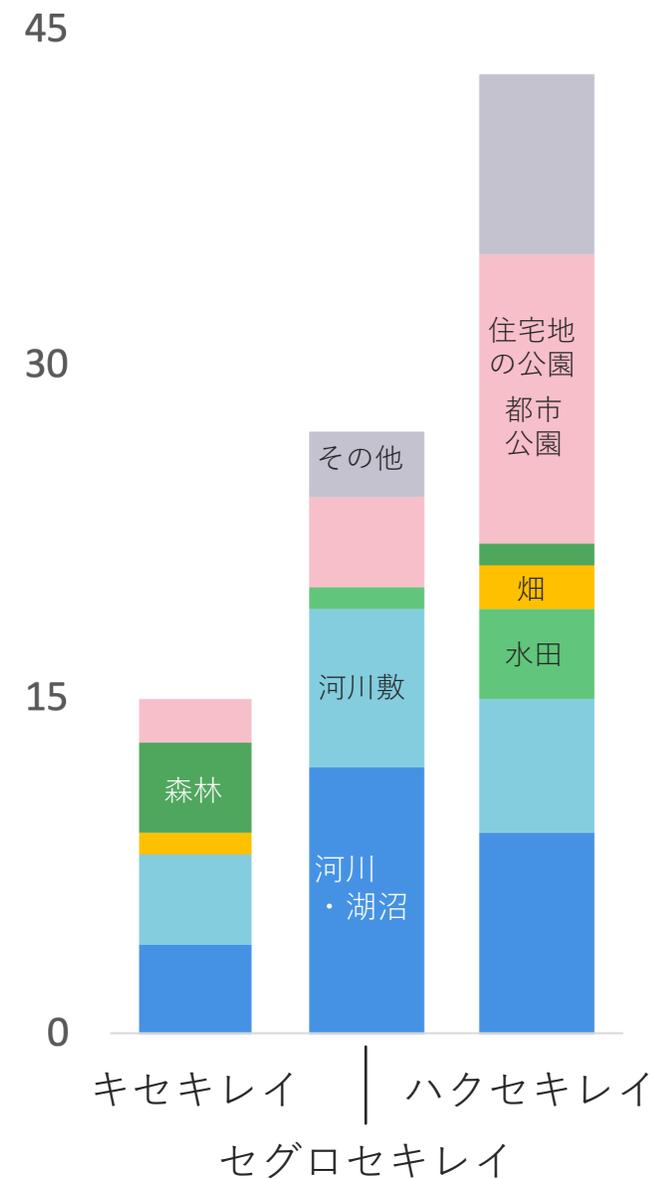


ヒヨドリの 食性の季節変化



セキレイ類の食性

	多様度指数 Shannon's H	水辺の利用率 (河川・湖沼、河川敷、水田)
キセキレイ	3.12	27 %
セグロセキレイ	2.06	48 %
ハクセキレイ	2.75	30 %



ジョウビタキの越冬期の食性

メニューが
直積されつつ
ある

分類	数	備考
 果実・種子	30	
 昆虫の幼虫	7	
 昆虫の成虫	1	
 ミミズ	3	
その他	2	ムカデ、杉の芽
雌雄差や	不明	9

緯度による違いはまだよくわからない

イソヒヨドリの越冬期の食性

	分類	数	備考
メニューが 直積されつつ ある	 海藻	9	気泡の採餌例が多い
	 果実・種子	6	
	 ミミズなど	5	
	 昆虫の成虫	3	
	 昆虫の幼虫	3	
海藻をよく 食べている？	その他	4	ダンゴムシ、ムカデ、花芽、その他

カワウのドブネズミ捕食

投稿者と報告を投稿中

カワウの食性については
数多くの研究があるものの、
哺乳類を食べたという記録は
ほとんどない

(Kortlandt 1940, Fischer and Rockley 1954)



ヤマドリ of 食性記録 続々と

吉村正則さんなど

ヤマドリ of 食性は
狩猟期間に狩猟された個体
から調べられた先行研究が
あるが、その他の季節の情報は
ほとんどない。



吉村正則さん撮影

食性を調べるいろいろな方法

胃内容物やペリットの分析

有害捕獲や狩猟で捕獲された個体の胃を調べる

- 直前に食べていたものを網羅的に把握できる
- ×消化が進んだものは検出されにくい
- ×サンプルを得られる時期や場所が限られる

食性を調べるいろいろな方法

糞中DNAメタバーコーディング

糞などに残る餌生物のDNAを解析する

- 他の方法で検出されにくい内容も把握できる
- ×内容を定量的に知ることが難しい
- ×糞の採取が難しい

食性を調べるいろいろな方法

直接観察

- 季節や場所に関係なく手軽に記録できる
- × 観察が難しい種や餌の記録は得られにくい

記録を溜めるときの注意点

観察しやすい記録や珍しい記録に偏ることがある。

普通種の普通の採餌記録を蓄積することが

とても大事！

食性データベースへの登録数上位10名の 観察方法など紹介

鳥が餌を食べるところを記録することは、在不在と比べると記録が難しい内容だと思います。皆さんの観察方法を共有することで、記録をとるときに参考にしてもらい、より多くの方に参加してもらえればという意図です。

(後日、ブログかニュースレターでも紹介します)

渥美美保さん

カメラと双眼鏡を首から提げ、左手にスマホを持ちながら、**近所の川と河川敷、田畑**にいる鳥を月に10回記録し始めて4年半。開けた場所なので目で追いやすく、餌を探している雰囲気があれば**双眼鏡**で見続けていると、「なにかつついている」「なにか食べた」と分かることが多いです。その先の「なにを」は挑み甲斐があり、**カメラ**のズームを最大にして撮るか、食べ残した様子があれば飛び去った後にその場に足を向けてみます。植物の名前は、**Google検索**（主に画像検索）と、『**樹木検索図鑑**<http://www.chiba-museum.jp/jyumoku2014/kensaku/>』、『**四季の山野草**<http://www.ootk.net/shiki/>』を組み合わせて絞り込みます。残念ながら今のところ昆虫（水生も）や魚の特定はほとんどお手上げです。楽しさを感じるのは、上述のように写真や現地での物証から餌を特定する過程です。田んぼの側溝にトビが出入り?! →水のない側溝に干からびたミミズ。電柱で獲物をむしるチョウゲンボウ →電柱の下でスズメの羽を確認。電柱にレモン色の獲物をくわえたハシブトガラス →すぐそばに同程度の色づきのイチジクの木。河川敷でモズを追い、ニセアカシアのトゲにささった獲物発見 →ドキドキ接近...皮が剥かれたカエル! などなど。

鈴木遼太郎さん

「食べる」という行為は鳥類にとって最も普遍的な行動の一つですが、餌内容・採餌の方法は、種ごと、年齢ごと、地域ごと、そして季節ごとに実にバラエティに富んでいます。私自身はバードウォッチングを趣味として10年ほどになりますが、鳥類の採餌行動はいつ見ても新たな発見があり、飽きることのない対象の一つです。

採餌行動の観察時に注意している点としては、いわゆる普通種でも「何をしているのか？」と常にアンテナを張っていることでしょうか。林で小鳥の群れが鳴き騒いでいた時、水辺でサギが餌を狙っていた時、最低でも数分間は留まって採餌行動が見られないかをチェックしています。また、カラスやハト類が地面でついでに採餌をしている様子はよく見られますが、食物が非常に小さく、撮影しても分からないことが大半です。こうした時は、**鳥が移動するまで待ち、地面の種子や昆虫を探して確認**することもあります。

餌生物の同定は、常に悩みの種と言ってよいかもしれません。私自身は、魚類に関してはある程度の自信があるのですが、それ以外となると目や科のレベルでも分からないことがしばしばです。iNaturalistのように、観察者同士で相互に教え合うような体制が構築できれば、自身が苦手な分類群についてもより高い精度で同定できるかもしれません。

近年、野鳥の性・年齢・類似種の識別に着目する観察者は増えてきましたが、身近な鳥類の生態に関しては体系的な情報が少ないように感じています。今後、食性を含めた鳥類の生態に興味を抱くバードウォッチャーの人口が増えることを期待しています。

田村ゆかりさん

わたしの場合、食事の様子が見られるのは、**散歩レベルの鳥見**をしているときが多いので、機材は**日の出光学の6倍双眼鏡**と**ソニーのホームムービーCX430V**であることが主です。

珍しいものがいなくてじっくり観察しているときや、たまたま近くにいて食べているものがわかったときなどに、記録しています。食べているものがわかると、今後、その種を見つけやすくなるかもしれないという意識もありますが、単純に食事風景が可愛いということも動機になっています。

松下よし子さん

自宅の前にある川の堤防、近隣にある自然環境を活かして整備された公園などを歩きながら野鳥の写真を撮影しています。装備は2kg超、私にとっては健康づくりの為にウォーキング・筋トレ・BWがセットで、隙間時間を使ってのお楽しみ活動になっています。**双眼鏡**も持っていますが、動きの速い野鳥の特徴を瞬時にとらえて種類を特定することが自分には難しく、それならばと**望遠レンズをつけたカメラ**での撮影を練習しました。食性データベースに報告するときは「野鳥が採餌する構えに入ったときにピントを合わせて待ち、動き出した瞬間から餌を捕らえたと思われるところまで連写」しています。慣れるにつれて採餌の姿を捕らえることはできるようになりましたが、餌となる動植物の種類はとて多くて「あれは何？」という新たな課題が生まれました。PENTAX300のレンズ、カメラはPENTAX K3、途中からCONVERTERを入れて焦点距離を1.4倍にしました。レンズ越しに見える生き生きとした野鳥の姿や生き様には驚くことが沢山あります。

鳥居憲親さん

鳥の食性を調べよう！と言われると、何だか難しく聞こえるかもしれません。実際、鳥がいつ採食するかはその鳥の気分次第なので、採食シーンの観察にはある程度の根気が必要になってしまいます。はりきって出かけたのに空振りが続くと、調べる意欲もだんだん低下してしまいます。なので私は通勤経路など、**普段よく通る場所で移動の“ついで”に、採食している鳥はいないかな？と探すようにしています**。そうすることで、日常生活内にもともとある時間を使って無理なく繰り返し鳥たちの採食シーンを探すことができます。例えば、**実のなる木がある公園や学校**は肉眼でも観察しやすく、オススメの場所です。

一方、現在食性データベース内でやらせてもらっている「イソヒヨドリの越冬期の食性調査」は、イソヒヨドリはどんなものを食べているのだろうか？という疑問でやっています。そのためこちらは、採食するまでイソヒヨドリの後をトボトボと付いて歩いています。冬の海岸で調べているので寒さ対策のカイロが必須ですが、**観察するたびに味わう「答え」を知った喜びと、「この鳥はコレを食べる」というオリジナルの事実が自分の中に積み上がっていく嬉しさはひとしおです**。

黒沢令子さん

観察の装備：**偶然に見つける**ことが多いので**裸眼**が多いが、**双眼鏡**など。写真は極めて下手なのでカメラには頼らない。

コツ：**よく野外を見て観察する回数を増やす**。鳥の姿を見かけたら、できる限り、眼で追う。鳥が何かを持っていたり、ごそごそ探しているような行動に注目して、しばらく見守ると、何を食べているのかわかることがある。

タイミング：よく野外を見て観察回数を増やす。朝や夕方に見ることが多いが、日中でもある。

観察することが多い場所：自然地域だけでなく、農地、公園や街中など**いつでもどこでも**。

食性を観察する動機：ある種の鳥が生活を営むのに、他種との違いを知る上でとても大事な行動なので、ずっと注目している。

楽しさ：知られていない食べ物を食べたり、意外な行動をとるのに気づく機会もあって驚きや高揚感が得られて楽しい。例) 壁に張り付いて虫をとるスズメ、カラスの貯食を失敬するアカゲラ等々。(笑)

大門聖さん

この度はご紹介いただきありがとうございます。この食性観察に携わるようになった動機として私の場合は学生時分に鳥類の巣に生息する昆虫を調べていた経験があり、**鳥類と他の生物の相互関係に興味**を持っていたからです。元々昆虫が専門なのですが、その後鳥類の調査などに関わるようになり、採餌物の中でどんな種類を、どのように食べているのかということに個人的に興味を持ち、以前から観察中などに見つけた場合は可能な範囲でフィールドノートに記録するようにしています。ちょうどバードリサーチさんで食性データベースのプロジェクトが立ち上がったのを聞いたので参加させていただきました。食性調査のコツなどは特にはないのですが、**たまたま採餌の様子を観察できた場合は写真や動画を撮ったりして餌の種類などを調べています**。採餌物を調べる過程で他の生き物の知識が身についたり、食べなさそうなものを食べているのを観察できたりと面白い発見もあります。

菱田清和さん

1. カメラ 野鳥観察に関しては**Nikon D850**を使用。三脚や一脚は使わず手持ちで撮影しています。撮影距離が遠目であることが多いので画素数のあるものを使っています。
2. レンズ 単焦点レンズ AF-S NIKKOR 500mm f/5.6E PF ED VRを使用。食性行動している時間は短いことが多いのでピントが早く合うものを使っています。遠い場合は×1.4のテレコンを装着しています。
3. 双眼鏡、ルーペの使用。薄暗い場所ではレンズを通しては見にくいこともあって、神津島ではNikon Sportstar EX 8×25を使って確認しています。
道路上や草原の餌と思われるものはルーペで見るようにしています。
4. カウンターの使用 食性行動には直接関係しないこともあるのですが、群れで木の実や種子を食べに来ていることがあるのでカウンターを使って野鳥を数えています。
5. その他 食事をしているときの様子を動画に撮るために、時間的に許せるときは簡易デジカメでその様子を撮るように準備しています。

西川光一さん

自宅から近い多摩川とその周辺で撮影の合間に観察、記録しています。撮影が楽しくて、足繁くフィールドに通ったため件数を重ねられました。

魚食性の鳥は獲物が比較的大きいので記録しやすいです。餌生物の種がわからなくても、時間帯、大きさ等が分かれば情報として有用かなと思い記録しています。

観察の記録は餌生物の同定などが調べても難しそうな場合にはその場で送信。何かわかりそうなら、時刻等を記録して持ち帰ります。採食時の写真があると後で役立ちます。

地域ごとの生き物をまとめた冊子やウェブページは同定に役立ちます。目星をつけるのにも使えますし、「これっぽい」と思った餌生物が実際にそこにいるのかが分かります。とはいえ、餌生物の種レベルの判別は難しいです。私の記録を確認したところ全33件の内8件しか同定できていません。

フィールドに出れば鳥の採食行動は見かけます。調査に報告できそうだと思い実際にすることもあります。おおむねスルーです。採食していた鳥や餌生物について、調べていく中で諸々判定が微妙になり「やめておこう」となることもあります。**わかる範囲で報告していくことが良さそうです。報告できると充実感があります。**

